



五百旗頭真の大災害の時代

第25回 [東日本大震災の大津波]

まず岩手沿岸を襲う

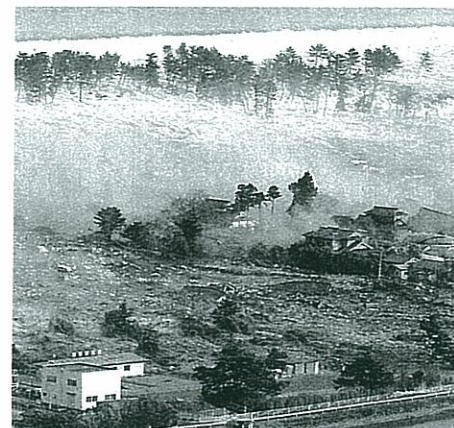
さまざまな災害の中で、地震はとりわけ深い恐怖に人々を引き込む。それは二本足で立つ人間が大地への信頼に基づいて生活しているのを重切からである。大地が人間の堅固にして不動の基礎であるとの信仰は地震の瞬間、根底から崩れる。激しく揺れ動き、流体のように変形して、水平と垂直から成るまじの秩序を破壊し、真っ黒な亀裂の口を開けて人々をのみ込む。四季折々に自然の幸をもちたらず大地が、オレも悪魔なのだほえる瞬間が地震なのである。

阪神・淡路の被災地であった。私はそのことを体験した。わずか20秒の激震を、2分、3分も続いた地獄の責め苦に感じ、それが過ぎた時、以前とは別の時代に生きる自分であるように感じた。

東日本大震災の被災者にとって、マグニチュード(M)9というケタ外れの巨大な大地の断裂によって、5分ほども続いた大揺れがすべてではなかった。大地の魔神が呼び起した海の魔神がたけり狂い、30分を過ぎた頃から東北各地の太平洋岸のまちまちに襲いかかったのである。犠牲者の9割以上が、この

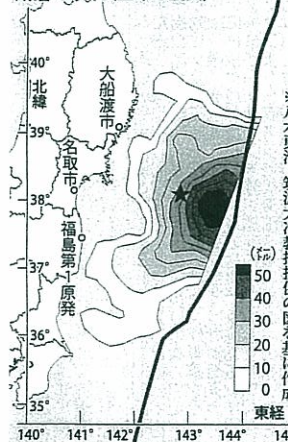
津波による溺死であると検視結果は告げている(警察庁「東日本大震災と警察 2012年3月」によると、溺死1万4300人、90.6%、圧死等607人、4.2%、焼死145人、0.9%としている)。最新の集計によれば、死者1万8000人、行方不明26500人であり、2万2000人近い方の命が奪われたことになる(消防庁「東日本大震災第149報」14年3月7日)。

のみではなかった。第3の災禍が生じた。津波が福島県宇津波発電所に襲いかかり、全電源喪失に追い込んだのである。第2原発は幸うじて電源を再建したが、第1原発は冷却システムを回復できず、メルトダウン、炉心溶融を来した。その結果、水素爆発を起こして放射性物質を大気中に拡散させた。ヘリや車面からの放水により、まわく当座の冷却に成功したが、もう少しで東京を含む東日本を住めない地にしてしまいかねない重大事態であった。



わずか8秒の間に家屋をのみ込み、押し寄せた津波—宮城県名取市で2011年3月11日午後3時56分、本社ヘリから手塚耕一郎撮影

東日本大震災を引き起こした断層のずれ(星印は震央)



震源域よりも東方の海溝に近いプレートが最大50センチもはね動き、それが海水を大きく動かし、巨大津波を生む結果となった。南北450キロ、東西2000キロの巨大な海域の地下での激しい断裂により、日本に記録されたことのない大きな地震と津波が起きた。

地震は午後2時46分に始まったが、その3分後に気象庁は津波警報を発し、宮城県で6メートル、岩手県と福島県で各3メートルを予測し注意を呼びかけた。それは地震の規模をM7.9と過小に判断した結果の控えめすぎる予測であった。この大地震は南北450キロにわたって数分間断裂が動かし続けた。

迅速に警報を出すことは肝要である。緊急地震速報は、沿岸部の人には「間もなく大きな揺れが来ます」と聞いた直後に大揺れとなり、対処のいとまはなからぬ。被災者を出さずには済まぬ。津波は岩手県に早く進んだ。距離的に至近の宮城県石巻市の牡鹿半島、鮎川には宮古

津波による溺死であると検視結果は告げている(警察庁「東日本大震災と警察 2012年3月」によると、溺死1万4300人、90.6%、圧死等607人、4.2%、焼死145人、0.9%としている)。最新の集計によれば、死者1万8000人、行方不明26500人であり、2万2000人近い方の命が奪われたことになる(消防庁「東日本大震災第149報」14年3月7日)。

のみではなかった。第3の災禍が生じた。津波が福島県宇津波発電所に襲いかかり、全電源喪失に追い込んだのである。第2原発は幸うじて電源を再建したが、第1原発は冷却システムを回復できず、メルトダウン、炉心溶融を来した。その結果、水素爆発を起こして放射性物質を大気中に拡散させた。ヘリや車面からの放水により、まわく当座の冷却に成功したが、もう少しで東京を含む東日本を住めない地にしてしまいかねない重大事態であった。

津波は午後2時46分に始まったが、その3分後に気象庁は津波警報を発し、宮城県で6メートル、岩手県と福島県で各3メートルを予測し注意を呼びかけた。それは地震の規模をM7.9と過小に判断した結果の控えめすぎる予測であった。この大地震は南北450キロにわたって数分間断裂が動かし続けた。

迅速に警報を出すことは肝要である。緊急地震速報は、沿岸部の人には「間もなく大きな揺れが来ます」と聞いた直後に大揺れとなり、対処のいとまはなからぬ。被災者を出さずには済まぬ。津波は岩手県に早く進んだ。距離的に至近の宮城県石巻市の牡鹿半島、鮎川には宮古

津波による溺死であると検視結果は告げている(警察庁「東日本大震災と警察 2012年3月」によると、溺死1万4300人、90.6%、圧死等607人、4.2%、焼死145人、0.9%としている)。最新の集計によれば、死者1万8000人、行方不明26500人であり、2万2000人近い方の命が奪われたことになる(消防庁「東日本大震災第149報」14年3月7日)。

のみではなかった。第3の災禍が生じた。津波が福島県宇津波発電所に襲いかかり、全電源喪失に追い込んだのである。第2原発は幸うじて電源を再建したが、第1原発は冷却システムを回復できず、メルトダウン、炉心溶融を来した。その結果、水素爆発を起こして放射性物質を大気中に拡散させた。ヘリや車面からの放水により、まわく当座の冷却に成功したが、もう少しで東京を含む東日本を住めない地にしてしまいかねない重大事態であった。

津波による溺死であると検視結果は告げている(警察庁「東日本大震災と警察 2012年3月」によると、溺死1万4300人、90.6%、圧死等607人、4.2%、焼死145人、0.9%としている)。最新の集計によれば、死者1万8000人、行方不明26500人であり、2万2000人近い方の命が奪われたことになる(消防庁「東日本大震災第149報」14年3月7日)。

のみではなかった。第3の災禍が生じた。津波が福島県宇津波発電所に襲いかかり、全電源喪失に追い込んだのである。第2原発は幸うじて電源を再建したが、第1原発は冷却システムを回復できず、メルトダウン、炉心溶融を来した。その結果、水素爆発を起こして放射性物質を大気中に拡散させた。ヘリや車面からの放水により、まわく当座の冷却に成功したが、もう少しで東京を含む東日本を住めない地にしてしまいかねない重大事態であった。

津波による溺死であると検視結果は告げている(警察庁「東日本大震災と警察 2012年3月」によると、溺死1万4300人、90.6%、圧死等607人、4.2%、焼死145人、0.9%としている)。最新の集計によれば、死者1万8000人、行方不明26500人であり、2万2000人近い方の命が奪われたことになる(消防庁「東日本大震災第149報」14年3月7日)。

のみではなかった。第3の災禍が生じた。津波が福島県宇津波発電所に襲いかかり、全電源喪失に追い込んだのである。第2原発は幸うじて電源を再建したが、第1原発は冷却システムを回復できず、メルトダウン、炉心溶融を来した。その結果、水素爆発を起こして放射性物質を大気中に拡散させた。ヘリや車面からの放水により、まわく当座の冷却に成功したが、もう少しで東京を含む東日本を住めない地にしてしまいかねない重大事態であった。

津波による溺死であると検視結果は告げている(警察庁「東日本大震災と警察 2012年3月」によると、溺死1万4300人、90.6%、圧死等607人、4.2%、焼死145人、0.9%としている)。最新の集計によれば、死者1万8000人、行方不明26500人であり、2万2000人近い方の命が奪われたことになる(消防庁「東日本大震災第149報」14年3月7日)。

のみではなかった。第3の災禍が生じた。津波が福島県宇津波発電所に襲いかかり、全電源喪失に追い込んだのである。第2原発は幸うじて電源を再建したが、第1原発は冷却システムを回復できず、メルトダウン、炉心溶融を来した。その結果、水素爆発を起こして放射性物質を大気中に拡散させた。ヘリや車面からの放水により、まわく当座の冷却に成功したが、もう少しで東京を含む東日本を住めない地にしてしまいかねない重大事態であった。

津波による溺死であると検視結果は告げている(警察庁「東日本大震災と警察 2012年3月」によると、溺死1万4300人、90.6%、圧死等607人、4.2%、焼死145人、0.9%としている)。最新の集計によれば、死者1万8000人、行方不明26500人であり、2万2000人近い方の命が奪われたことになる(消防庁「東日本大震災第149報」14年3月7日)。

のみではなかった。第3の災禍が生じた。津波が福島県宇津波発電所に襲いかかり、全電源喪失に追い込んだのである。第2原発は幸うじて電源を再建したが、第1原発は冷却システムを回復できず、メルトダウン、炉心溶融を来した。その結果、水素爆発を起こして放射性物質を大気中に拡散させた。ヘリや車面からの放水により、まわく当座の冷却に成功したが、もう少しで東京を含む東日本を住めない地にしてしまいかねない重大事態であった。

津波による溺死であると検視結果は告げている(警察庁「東日本大震災と警察 2012年3月」によると、溺死1万4300人、90.6%、圧死等607人、4.2%、焼死145人、0.9%としている)。最新の集計によれば、死者1万8000人、行方不明26500人であり、2万2000人近い方の命が奪われたことになる(消防庁「東日本大震災第149報」14年3月7日)。

のみではなかった。第3の災禍が生じた。津波が福島県宇津波発電所に襲いかかり、全電源喪失に追い込んだのである。第2原発は幸うじて電源を再建したが、第1原発は冷却システムを回復できず、メルトダウン、炉心溶融を来した。その結果、水素爆発を起こして放射性物質を大気中に拡散させた。ヘリや車面からの放水により、まわく当座の冷却に成功したが、もう少しで東京を含む東日本を住めない地にしてしまいかねない重大事態であった。

津波による溺死であると検視結果は告げている(警察庁「東日本大震災と警察 2012年3月」によると、溺死1万4300人、90.6%、圧死等607人、4.2%、焼死145人、0.9%としている)。最新の集計によれば、死者1万8000人、行方不明26500人であり、2万2000人近い方の命が奪われたことになる(消防庁「東日本大震災第149報」14年3月7日)。

のみではなかった。第3の災禍が生じた。津波が福島県宇津波発電所に襲いかかり、全電源喪失に追い込んだのである。第2原発は幸うじて電源を再建したが、第1原発は冷却システムを回復できず、メルトダウン、炉心溶融を来した。その結果、水素爆発を起こして放射性物質を大気中に拡散させた。ヘリや車面からの放水により、まわく当座の冷却に成功したが、もう少しで東京を含む東日本を住めない地にしてしまいかねない重大事態であった。